



東久留米の近代史シリーズ5

武蔵野鉄道東久留米駅 (3)

東久留米駅の誕生・1

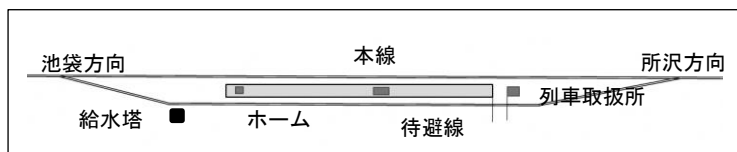
東久留米駅は、久留米村大字南沢字北原の畑地に開設されました。残念ながら当時の写真や図面が確認できないため駅舎等の詳細については不明です。左の配置図は当時を知る人からの聞き取り調査により作成されたものです。駅の入口は線路の東側にあって、ホームへは待避線を渡っていくようになっています。最も古い1932年（昭和7年）の写真にはホームと列車取扱所が写っています。東久留米駅は武蔵野鉄道全線のほぼ中間にあったため、列車の待ち合わせや蒸気機関車への給水を行っていました。給水作業は駅の池袋よりの線路わきに建てられた櫓（やぐら）の四角形の水槽（直径六尺）に手押しポンプで水を汲み上げ、ホースを下して機関車に給水するというものです。毎日定刻通りに一人で作業した人の話が伝えられています。



東久留米駅最古の写真

1932年（昭和7年）撮影

左の島式ホームからスロープを下り待避線を渡ります。右は列車取扱所。



初期の駅舎推定配置図

当時を知る人々からの聞き取りにより作成。列車取扱所、蒸気機関車のための給水塔などがありました。駅舎や給水塔位置に関しては明確になっていません。（西川竹三・神藤正雄・細田藤七氏より聞き取り調査）

1915年（大正4年）4月15日の開業日に初めて東久留米駅に到着した列車は、4両編成の蒸気機関車です。車両は特等1両と並等3両となっており、池袋までの運賃は特等33銭、並等22銭と高額でした。

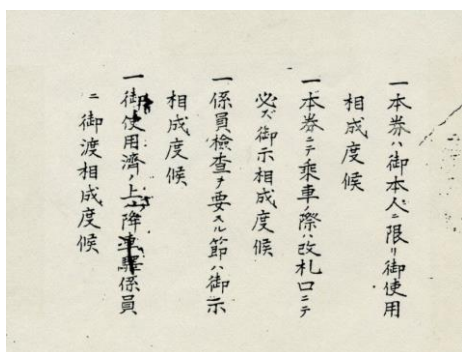
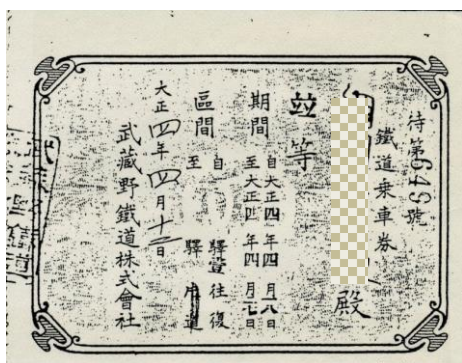
下の乗車券は、開通3日前に発売されたもので、4月18日が乗車日です。乗車する人の氏名と記されているのが特徴です。乗車券の表面には、

特第 649 号 鉄道乗車券 □□□□殿 並等 期間・区間 発売日・大正四年四月一二日 武蔵野鉄道株式会社

が記され、割り印がみられます。また、裏面には次の4点の注意書きが印刷されています。

- 一 本券ハ御本人ニ限り御使用相成度候
- 一 本券ニテ乗車ノ際ハ改札口ニテ必ズ御示相成度候
- 一 係員検査ヲ要スル節ハ御示相成度候
- 一 御使用済ノ上ハ降車駅係員ニ御渡相成度候

初めて開通した鉄道に乗る期待感と緊張感が伝わってくるような史料です。



鉄道開通時の乗車券（表・裏）
細田藤七氏より写し提供

東久留米駅・名称の由来

東久留米駅は武蔵野鉄道開業時に付けられた駅名ですが、その由来については定かではありません。当時、駅のある場所の自治体名は「久留米村」でした。普通なら「久留米駅」とするのが一般的なのでしょうが、久留米駅はすでに九州の福岡県に1890年（明治23年）に九州鉄道の駅として開業していました（明治40年に帝国鉄道庁所管）。そのことから、福岡県の久留米駅と混同しないように東の久留米、あるいは東京の久留米という意味をこめて「東久留米駅」と命名したと考えられます。それでは、「久留米」という名称そのものは何に由来しているのでしょうか。もともとの「久留米村」の名称は、市内を流れる黒目川に関係していると考えられます。今の黒目川は、江戸時代や明治時代の初めにかけて「久留目川」や「久留米川」と呼ばれていました。1889年（明治22年）に付けられた村の名前もこの「久留米川」に由来していると考えられています。

（東久留米市文化財保護審議会委員 山崎 丈）

編集・発行

東久留米市郷土資料室（東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係）

203-0033 東京都東久留米市滝山4-3-14 東久留米市わくわく健康プラザ内
電話 042-472-0051 無断転載はしないでください